

第9回 介護・医療連携推進会議報告

平成26年4月21日 16時～

ケア・オフィス 優 (介護看護課)

<出席者>

小樽市医療保険部 介護事業所担当主幹	生瀬 裕司 様
小樽市介護保険課 主査	須摩 敦子 様
中部地域包括支援センター	松田 記代子 様
ケア・オフィス 優 管理者	二丹田 早稲子
ケア・オフィス 優 介護福祉士	屋代 利恵子
ケア・オフィス 優 事務職員	齋藤 智世

1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 集計報告

- ① 1月、2月、3月の集計→以前より、随時対応、緊急訪問などを含め、訪問回数は落ち着いている状況
- ② 疾患の別
 - ・脳梗塞後遺症
 - ・圧迫骨折
 - ・大腸癌
 - ・脊髄小脳変性症
 - ・変形性膝関節症
 - ・リンパ腫
 - ・肺癌
- ③ エリア
 - ・幸～桜町
- ④ 終了者
 - ・3名
 - 通常サービスへの移行
 - 入院

2. 定期巡回サービス内容報告

- ① 排泄介助、おむつ交換、ハルンバック尿廃棄、ポータブルトイレ処理
- ② 体位交換
- ③ 軽微な傷の処置
- ④ 配膳、下膳、食事介助
- ⑤ 内服介助、湿布交換
- ⑥ 起床、就寝介助

- ⑦ 買い物、調理、洗濯、掃除
- ⑧ 洗顔、清拭、洗髪、足浴、手浴、口腔ケア
- ⑨ 更衣介助
- ⑩ 入浴介助（二人介助あり）
- ⑪ デイサービス送り出し
- ⑫ 通院介助（自費）
- ⑬

3. 随時対応サービス内容報告

- ・トイレ介助や失禁介助などの訪問要請
- ・体調不良など看護師の訪問要請
- ・便の状況により、下剤量の相談（ヘルパーより）
- ・不穩による対応の相談

4. 随時訪問サービス内容報告

- ① トイレ誘導
- ② 失便対応、保清
- ③

5. 訪問看護緊急対応内容報告

- ① 体調不良（発熱、不定愁訴）
- ② 排便困難にて用指摘便
- ③ 便漏れによるパウチ交換
- ④ バルンカテーテルトラブル
- ⑤

6. 現状報告

- ・癌末期にて介入。現在、状態安定にて食事摂取可となり、訪問時間が1日3回60分を超えている方がいる。ケアマネと話し合っているが、代替えがない状況。
1回の訪問が長時間となっている方がおり、通常サービスの利用が適切かと思われる事例もあるが、入浴など他のサービス利用を考慮すると単位数不足が生じる恐れがあり、定期巡回サービス継続中である。
- ・人材不足は変わらず。（訪問介護を縮小し対応している）
定期巡回サービスの依頼を優先するべく訪問介護サービスの新規依頼をお断りしている状況。
定期巡回サービスに付随する訪問介護サービス（通院等乗降）の回数や時間数も考慮しての判断。
- ・新患の依頼時、「定期巡回が妥当なのか、見極めの面談」希望が増えている。

7. 広報活動など

- ・ 3月14日 福祉の広場にてサービス内容の説明

○他市の状況

- ・ 実施数（北海道）36カ所で一体型は16カ所
札幌25、函館6、小樽、帯広、夕張、千歳、幕別
* 札幌は施設併設が8割弱（利用者9割が入居者）
- ・ 全国（平成26年1月）
一体型→145事業所
連携型→270事業所
利用者数→5,967名
1事業所平均＝14.38名
- ・ 当事業所 現在9名（利用者トータル37名）

8. 問い合わせ状況

- ・ 糖尿病で食事（調理にて単位を厳守）の管理、訪問看護による指導にてサービスを検討中。

9. 役員の方からの助言など

- ・ サービス内容等なかなか浸透せず、1ヶ月の定額算定であれば1日何回でも来てもらえると思われることがあり、ケアマネジャーの方々にはアセスメントによりサービスとして何を必要としているのか判断することをお願いしたい。また、初回面談時や契約時、サービスの主旨をしっかりと説明、理解していただくことがますます重要だと感じている。
- ・ 第三者評価については、未だ厚生労働省からの通達がないため、市としては評価を推進することはできない。
→介護サービスにおける評価の北海道基準が出ていないため、何か独自の利用者アンケートを考えているところである。